

はなの輪

広島市植物公園植物友の会

2024年4月-6月 通巻第179号



園長のおすすめ 2023年6月20日号より

ハンゲショウ *Saururus chinensis* (Lour.) Baill.

ハンゲショウは日本や中国の湿地などに自生するドクダミ科ハンゲショウ属の植物で、地下茎で増えます。草丈は50~100cmで冬の間、地上部はなくなります。6月中旬から7月上旬にかけて白い花穂を付け、花穂の下の葉が半分くらい白くなる特徴があります。葉が白くなるのは、虫に花のありかを知らせるためと言われています。

「半夏生」は雑節の一つで、夏至から数えて11日目頃から七夕までをよび、この頃に白い葉（半化粧）をつけることから、名づけられたとも言われています。

(園内位置：花の進化園)

[写真・文 永井 親雄]

園長のおすすめ

植物公園ブログでは、園長のおすすめを定期連載中です。

見ごろの植物や最新のイベント情報も掲載しています。



<https://blog.hiroshima-bot.jp>

春の特別ラン展「ランで祝う新サッカースタジアム」

令和6年2月17日（土）～2月25日（日）までの9日間、広島サッカースタジアム「EDION PEACE WING HIROSHIMA」の開業を祝い、サンフレッチェ広島との初のコラボイベントとして、春の特別ラン展を開催しました。

大温室では、ランで彩ったスタジアムを模した展示（写真1）や撮影スポット（写真2）、サッカー大国のランを集めたコーナー（写真3）など、サッカーやサンフレッチェに関する展示を行いました。

展示資料館1階ロビーでは「復興の歴史とサッカー」のパネル展示とユニフォームや優勝記念サイン入りサッカーボール、スタジアムの模型（広島市所蔵）を展示（写真4）し、2月18日（日）にはサンフレッチェ広島アンバサダーの森崎浩司氏をゲストにお招きして、トークショーと親子ふれあいサッカー体験を開催しました（写真5）。トークショーの終わった後には、記念撮影会も開かれ、ファンとの和やかな交流が行われました。期間中、平日は天候に恵まれませんでした。週末には天気が回復し、7,359人の来園者が訪れました。ランやサッカーの展示だけでなく、フクジュソウやウメなど、早春の花々を写真に収める来園者の姿もよく見かけました。

[写真・文 中原 祥之]



写真1 ランで彩ったスタジアムを模した展示



写真2 撮影スポット



写真3 サッカー大国のランを集めたコーナー



写真4 ユニフォームやスタジアム模型等の展示



写真5 森崎浩司氏によるトークショー

2024年4月～6月 展示会・イベント案内

3/23 (土)
～ 4/14 (日)

さくらまつり

70種類を超える桜の競演。4月中旬まで、八重桜（里桜）や菊桜が園内を彩ります。4/6は20時まで夜間開園を行います。

5/4 (土・祝)

みどりの日・植物園の日記念行事

入園料無料（要駐車料）。クイズラリー（先着1000名）やコンサート、地元農産物・キッチンカーの販売など盛り沢山。

5/11 (土)
～ 5/26 (日)

ローズフェスティバル

歴史的な古品種など、県内最多の850品種のバラがお出迎え。講習会やガイドツアーなどのイベントも開催。

展示会のご案内

展示会の内容は、一部変更になる場合があります。
最新情報はホームページ・電話等でご確認ください。

「草木染の世界」展	共催：広島草木染の会	3/2～4/4	展示資料館
ゼラニウム展		3/2～4/14	展示温室
ボタニカルアート展	協力：広島ボタニカルアートソサィエティ	4/6～5/6	展示資料館
サクラソウ展	協力：植物友の会植物同好会	4/13～4/17	屋外展示場
エビネ展	共催：安芸えびね研究会	4/20～4/23	展示温室
春の山野草展	共催：広島山草同好会	4/20～4/24	屋外展示場
春の洋ラン展	協力：広島洋蘭倶楽部 他	4/27～5/6	展示温室
クレマチス展	共催：日本クレマチス協会広島支部	4/27～5/6	屋外展示場
セッコク・長生蘭展	共催：瀬戸内セッコク愛好会	5/8～5/13	展示温室
趣味のボタニカルアート展	共催：花も実もある会	5/11～6/5	展示資料館
遅咲きクレマチス展	共催：日本クレマチス協会広島支部	5/18～5/21	屋外展示場
ハーブ展		5/18～5/26	展示温室
アジサイ展		5/25～6/30	屋外展示場
セントポーリアとイワタバコの仲間展		5/29～6/9	展示温室
初夏の小品盆栽展	共催：広島小品盆栽会	6/8～6/10	展示資料館
ウチョウラン展	共催：広島ウチョウラン保存会	6/15～6/20	展示温室
私の好きな花たちの写真展	共催：新田写真教室	6/15～7/15	展示資料館
ビカクシダとカラフルリーフ展		6/29～7/15	展示温室

Event Information 2024 4-6

植物園で開催されるイベントを紹介します

4 月

- さくら写真撮影講習会 (各日先着20名)
4月6日(土)・14日(日) 午後1時半～3時
- ボタニカルアート展 (先着20名)
ギャラリートーク
4月7日(日) 午前11時～正午
- 色鉛筆で描く (先着15名)
ボタニカルアート体験
4月20日(土) 午後1時～3時
- 春の山野草実演会 (先着50名)
4月21日(日) 午後1時～2時
- エビネ実演会 (先着50名)
4月21日(日) 午後2時半～3時半

5 月

- クレマチス実演会 (先着50名)
5月3日(金・祝) 午後1時半～2時半
- 洋ラン実演会 (先着100名)
5月5日(日・祝) 午後1時半～2時半
- セッコク実演会 (先着20名)
5月12日(日) 午後1時半～2時半
- ハーブ展ギャラリートーク (先着20名)
5月18日(土) 午前11時～正午
- ハーブ実演会 (先着100名)
5月19日(日) 午前11時～正午
- ボタニカルアート色付け体験 (先着15名)
5月19日(日) 午後2時～3時半
- バラ講習会 (先着100名)
5月26日(日) 午後1時半～3時半
- お茶会 (先着100名、一服400円)
5月26日(日) 午前10時半～

6 月

- モリアオガエル観察のすすめ (先着100名)
6月1日(土) 午後1時半～2時半
- アジサイ実演会 (先着50名)
6月2日(日)・9日(日) 午前11時～正午
- お茶会 (先着100名、一服400円)
6月2日(日)・9日(日) 午前10時半～
- ハナショウブ観賞会 (先着30名)
6月8日(土) 午前10時～11時
- 小品盆栽実演会 (先着100名)
6月9日(日) 午後1時半～2時半
- 植物写真撮影講習会 (先着30名)
6月16日(日) 午後1時半～3時

- *毎週土・日曜日・祝日 午後1時半～3時20分は、ガイドボランティアが園内を案内しています
- *4/14, 4/23, 5/6, 5/28, 6/1, 6/25 各日午前11時～園内で職員による植物うんちく語りを実施しています

*イベントの内容は、一部変更になる場合があります。最新情報はホームページ・電話等でご確認ください。



植物うんちく語り
年間スケジュール

申込制のイベント ※往復ハガキに催し名・住所・氏名・電話番号(・希望日)を記入してお申込みください。植物公園ホームページからもお申込みいただけます。

催し名・日程	内容等	定員	締切	申込QR
先生と子供のための森の幼稚園 6月2日(日) 午後1時半～3時	お山に登ろうをテーマに、自然の中で遊びます。年中・年長の子供と保護者、幼稚園等の先生が対象です。保険代100円。	25名 (抽選)	5月13日 【必着】	
暮らしに役立つハーブ講座 6月29日(土)、7月6日(土)、 7月13日(土) 午後1時半～3時	テーマ：ハーブについて (詳細未定) 材料費3,500円	30名 (抽選) *3回出席できる方	6月6日 【必着】	

ビカクシダとカラフルリーフ展

Staghorn fern & Colorful
leaf plants exhibition



ナガバビカクシダ



ビカクシダの常設展示
(大温室)



カラフルリーフの展示風景
(展示温室)

本園初開催。葉（孢子葉）の形がヘラジカやコウモリのように見えることから、麋角（びかく、おおしかの角）シダやコウモリランと呼ばれます。今回の展示では、ビザールプランツ（珍奇植物）として人気の高いビカクシダと斑入り植物などのカラフルリーフを同時に展示・紹介します。

アジサイのなかま Hydrangea spp.



アジサイ展 展示風景



ラグランジア®
'ブライダルシャワー'



ヤマアジサイ 瀬戸の月



園芸アジサイ
(森のレストラン周辺)



アメリカノリノキ 'アナベル'
(日本庭園前)



ヤマアジサイ
(日本庭園奥)

アジサイ展 (5/25~6/30) では、100鉢以上の多様なアジサイを解説パネルとあわせて展示します。また、園内には約3600株のアジサイを植栽しており、うらら池周辺や日本庭園の散策もこの時期のおすすめです。日本庭園では、モリアオガエルの卵塊も観賞できます。

4月～6月に見ごろを迎える植物



4月～6月

オルラヤ
(カスケード・花の進化園奥)



3月～4月

アイスランドポピー
(カスケードほか)



4月

ネモフィラ
(レストラン前花壇・花の進化園)



5月下旬～
6月上旬

シモツケ
(花の進化園)



通年
(春～秋)

メディニラ '火の鳥'
(大温室)



3月～5月

ヒスイカズラ
(大温室)



5月～6月頃

サボテン キンコウマル
(サボテン温室)



5月
(四季咲き)

バラ 'アンジェラ'
(バラ園)



6月～7月

トリアシショウマ
(ロックガーデン)



4月下旬～
5月

キビヒトリシズカ
(里山の野草園)



4月下旬～
5月上旬

エビネ
(日本庭園奥)



4月下旬～
5月上旬

シャクナゲ 'ボンファイア'
(ツツジ・シャクナゲ園)

3月・4月は別れと出会いの季節です。日本では、チューリップとサクラが卒業式・入学式を連想させる定番の植物ですが、海外ではそもそも式典を開かない国が多く、植物とはあまり結びつかないようです。ちなみに沖縄では、コガネノウゼン(黄花イペー)やデイゴが定番だとか。近年は暖冬が続き、入学式の日には、桜吹雪になっている年も。今年のお花見の見頃はどのようなのでしょうか? [写真・文:久保晴盛]

Plant Doctor Q&A

植物公園では、緑の相談窓口を設置しています。
家庭園芸のお困りごと、何でもご相談ください。
[☎082-922-3600 金曜を除く午後1時～4時]

Q. 庭も温室もないのですが、あまり大きくならず、ベランダや室内で花を楽しめて、冬を越して何年も育てることができるランの種類を教えてください。

A. 近年は断熱性の高い住宅が主流となっていて、冬でも室温を10℃以上に保つことが難しくなくなってきました。ランは品種改良も進んでおり、室温が10℃あれば冬を越せるものも少なくありません。例えば、中小輪コチョウラン（ミディコチョウラン、ミニコチョウラン）、小型オンシジウム（トゥインクルなどのケイロフォルム系交配種）、デンドロビウム（デンファレの仲間を除く）、ミニカトレヤ、フウラン交配種のバンダ（ブルースターなど）、小型シンビジウム（テーブルシンビジウム、和蘭など）、セロジネなどです。

春の終わりから秋にかけての戸外の最低気温15℃以上の時期はベランダや屋外で栽培し、遮光率50%を目安とします。秋から冬にかけてのそれより気温が低い時期は、屋内で育てましょう。葉色が薄くなるようでしたら遮光率を上げてください。ただし、デンドロビウムについては遮光率30%～40%とし、花芽形成のために気温10℃から5℃の環境を約1ヶ月間設ける必要があります。

なお、エアコンの風が当たると乾燥しすぎてしまうので、直接風の当たらない場所に置き、霧吹きで湿度を保ってあげてください。

[文 西内 良]



写真 コンパクトなテーブルシンビジウム

Q. 庭木の枝や幹に小さな白い虫のようなものが沢山ついています。どうしたらよいのでしょうか？

A. おそらく、カイガラムシの仲間が寄生しているものと思います。カイガラムシの仲間は植物に寄生することで、寄生先の植物の樹勢を低下させることがあります。また、彼らの排泄物によって、すす病といって葉を黒くする病気をもたらすことがあります。

防除法ですが、カイガラムシの仲間の成虫は、硬い殻やロウ状の物質で体表が覆われている種がおり、薬剤が効きづらい場合が多いです。幼虫の時期は薬剤が効きやすいため、早い段階でカイガラムシなどに登録のある薬剤の散布を行うと良いでしょう。冬の間であれば、マシン油乳剤の散布が有効です。また、薬剤を使わない防除法として、ホースからの水圧で落とす方法もあります。この場合、殺虫しているわけではないので、再度寄生する可能性があるため注意が必要です。

成虫がびっしりとついている場合は、薬剤を使っても効かないことが多く、ブラシなどで擦り落とす位しか方法はありません。面倒ではありますが、これが一番確実な防除法です。

[文 佐藤 祐輔]

Q. 近所のお寺にとっても大きな木があります。巨樹だと思のですが、認定する基準はあるのですか？また、地域の巨樹を保護する仕組みはありますか？

A. 樹木の大きさ・高さの比較は相対的なものであり、その樹種で稀な大きさに育ったものが巨樹になります。一応の目安として、環境省では、原則として地上130cm（胸高）の幹周りが300cm以上の木を巨樹と定義しています。直径にすると、概ね1m以上になります。

巨樹のなかでも、特に珍しいもの、貴重なものは文化財（天然記念物）に指定されています。また、広島市では、樹木保存法に基づく保存樹の制度もあり、積極的に地域の古木や名木の保護（対象は巨樹の基準とは異なる）に取り組んでいます。

巨樹は地域の歴史を物語る生き証人であり、貴重な財産でもありますので、後の世に引き継げるように努力したいものです。

[文 久保 晴盛]

カヤツリグサ科植物の低リンストレスに対する適応

リン (P) は植物が生育するために重要な元素の一つです。植物の中には、リンが少ない環境下に置かれると、特殊な形の根を形成するものがあります。

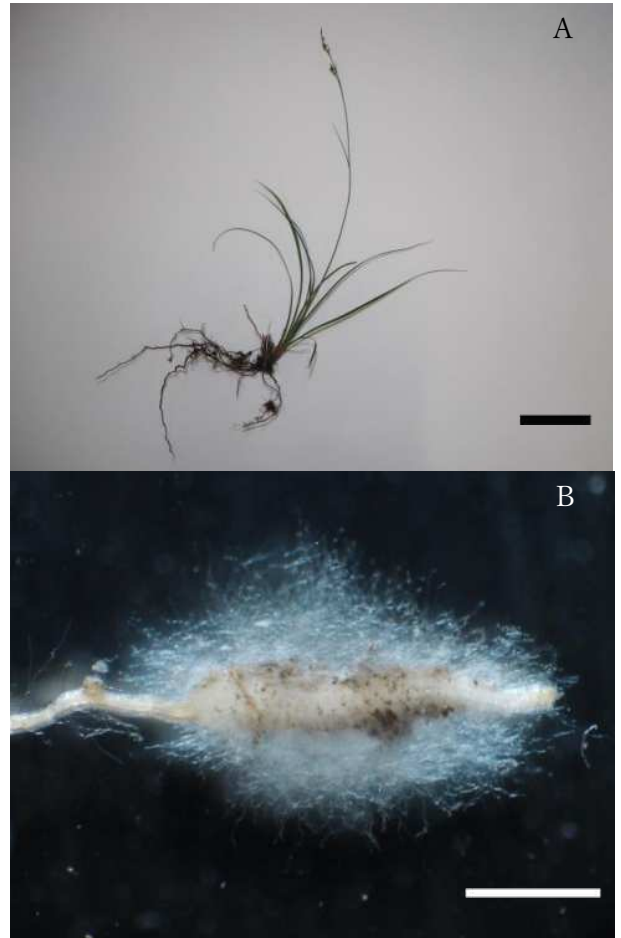
その一つが、カヤツリグサ科植物等が形成するダウシフォーム根 (Dauci-form root) と呼ばれるもので、ニンジン (属名 *Daucus*) のような形をしていることが名前の由来となっています。

この根は、根毛を密生させることで、根の表面積を増やして吸収効率を高めるだけでなく、土壌中に存在するリンを植物が吸収できる形に変えるなど、植物の生育にとって重要な役割を果たしています。

カヤツリグサ科植物は、日本では身近に見られる植物ですが、低リン土壌をはじめ、他の植物が侵入できないような過酷な環境にも生育します。彼らは一見地味な存在に見えますが、実は幅広い環境ストレス耐性を持つ凡庸ならざる植物なのかもしれません。

[写真・文 山本 晃弘]

図 ナキリスゲ *Carex lenta* D. Don var. *lenta* (A)
およびダウシフォーム根 (B)
[バーはAが5 cm, Bが1 mmを示す]



職員による植物うんちく語り (4月~6月の予定)

“見ごろの植物・展示会”のとおきの話を1時間程度、職員が熱く語ります。各回午前11時から、集合場所は展示資料館です。

4月14日	日	早咲きのバラ・珍しいバラ	座学 (定員100名)
4月23日	火	春の植物たち~園芸種から雑草まで~	現地 (定員40名程度)
5月6日	月休	変化朝顔を育ててみよう	座学 (定員100名)
5月28日	火	アジサイの七変化	現地 (定員40名程度)
6月1日	土	蛇紋岩植物をめぐる冒険	座学 (定員100名)
6月25日	火	ビカクシダとカラフルリーフ展 直前情報	座学 (定員100名)

年間予定
はこちら



広島市植物公園

広島市佐伯区倉重三丁目495

☎ 082-922-3600 📠 FAX 082-923-6100

- 開園時間 午前9時~午後4時半 (入園は4時まで) ■休園日 毎週金曜日
- 入園料 大人510円、高校生および65歳以上170円、中学生以下無料
- 駐車料 軽・普通自動車450円、中・大型車1,400円

